

(iii) The differentiation into the two types of pollen morphology occurred in an early phase of divergency of the species.

(iv) The examined Chenopodiaceae are considered to be the precursors of the Polygonaceae from the results of palynological and cytological studies.

(v) The genus *Polygonum* (containing the genera *Rumex* and *Oxyria*) is one of the most advanced group. In this group, some characters of higher plants were lost; for example the petals are lacking. Thus, this group is developing toward simplification.

Regarding the intrageneric differentiation of the *Polygonum* species, a preliminary scheme was shown in Fig. 4.

### ○顕花植物の新属の数 (前川 文夫) Fumio MAEKAWA: About 4000 new genera of flowering plants in these 35 years.

最近必要があって Index Kewensis の補遺を調べてみたら、新属の発表数が大体下の数だけあることを知ったので話の種に一筆記す。1921 年から 1955 年までの 35 年間の累計は下の通りである。

Gymnospermae	7 fam	38 gen.
Monocotyledoneae	30 "	808 "
Dicotyledoneae	156 "	3106 "
Incertae (位置不詳)		13 "
	193 fam.	3952 (外 13) gen.

これには Ratnesque の立てたような古くてのを再認する属や、当然つぶれるものなども含んでいる。またこの年間に第二次世界大戦があったのでほぼ 30 年分の業績とみてよかろう。すると毎年 131 属強、大体毎月 10 属位の速度で属が生れているわけだ。いい属も、くだらない属も玉石混淆、一々当り直してみれば面白いが、今はそこまで手をのばせない。

次に 50 属以上の新属の出たものをあげると全部で 19 科あり、単子葉ではイネ科 299, ラン科 164, ヤシ科 101, ユリ科 71, 双子葉ではマメ科 258, キク科 211, サボテン科 194, アカネ科 184, マツバボタン科 168, キツネノマゴ科 120, ナタネ科 120, セリ科 106, トウダイグサ科 90, キョウチクトウ科 83, シソ科 64, ゴマノハグサ科 58, ムラサキ科 57, ノウゼンカズラ科 56, ノボタン科 54, となる。

属の高さは著者によってまちまちでサボテン科の如きは明らかに細分に失するから、全体の妥当な新属はいいところ 1/3 位かと思われる。

終りにこの数字算出の基礎のリストをつくるのに協力された有吉愛子さんの労を感謝する。